

さらば チンポン漢文

(八訂版)

緻密な分析に基づく最高の一冊！合格へのパスポート！

氏名 ()

使用上の注意

- 1 何度も何度も読み、「例題」を解こう。
(「分かったつもり」で満足しない。実際に手を動かして、入試で得点できる力をつけよう！)
- 2 『明説漢文』など、市販の参考書と見比べながら勉強しよう。

○目次

- 目次
- センター試験の句形問題の分析 2
- 漢文の基礎 2
- 疑問形・反語形・詠嘆形 5
- 再読文字 6
- 使役形 7
- 否定形 9
- 仮定形 11
- 比況形 11
- 限定形と累加形 12
- 比較形 12
- 受身形 13
- 抑揚形 14
- 「熟語問題」 14
- 漢詩の知識 15
- 語彙 16
- 漢文の文学史 18
- 巻末例文集 20

- コラム
- ・「複数テキスト」 17
- について（共テ）
- ・「豈」のご乱心 19

※『さらば チンプン漢文』は、共通テストを念頭に作成しているが、文系のニーズにも対応するため、**【例題】**では二次レベルのものも多く取り入れている。理系の人も取り組んで欲しい。必ず力になるから。

○共通テスト（センター試験）の句形問題の分析

「センター試験」が開始された平成二年以降（含 試行テスト）、今年開始した共通テスト（含 プレ）までにおける、各句形の出題回数は下表の通り。

紙面の都合上、全ては詳しく扱えないので、頻度が高いものから順に重要事項のみを扱う。あとは、市販の参考書で学んで下さい。早速疑問形・反語形に入りたいが、我慢して、「漢文の基礎」の確認から始めよう。

禁止形	抑揚形	累加形	受身形	比較形	限定形	詠嘆形	比況形	仮定形	否定形	使役形	再読文字	疑問・反語形
1回	4回	4回	7回	8回	9回	13回	17回	18回	22回	25回	29回	45回

○漢文の基礎

1 訓点

漢文を和文の構造に合わせて読むために、我が国で開発されたのが訓点。

訓点：送り仮名＋返り点＋句読点

* 「訓点をつけよ」「返り点をつけよ」といった、設問の要求に正確に答える癖をつけよう。
* **書き下し文は歴史的仮名遣いで書く。**

(○) 漢文の基礎 の続き)

2 漢文の構造

漢文と和文の構造の違いについて、代表的なところを確認しよう。

① 和文「私は書を読む」 ↓ 主語 + 目的語 + 述語
漢文「我 読 書」 ↓ 主語 + 述語 + 目的語

② 和文「私は山に登る」 ↓ 主語 + 補語 + 述語
漢文「我 登 山」 ↓ 主語 + 述語 + 補語

目的語の送り仮名は「を」、補語の送り仮名は「に」「と」「より」が多い。そして、訓読する時は、目的語・補語から上に返って読むので、**という覚え方をするのだ。**

ヲ・ニ・ト・ヨリ返れ

ところで、「ヲ・ニ・ト・ヨリ」がなくても、下から返って読まねばならないのが**返読文字**。

(例) 有 朋。 「朋」の送り仮名は「ヲニトヨリ」ではないが、「有」はもともと返読文字なので下から返って読む。

(何)が「有」るのかを先に読む、(こ)こでは「何」

代表的な返読文字は、「有」「無」「難」「易」「与(と)」「欲」「所」「所以」など。また、いつも「句形」と呼んでいるものの中にも返読文字がたくさんある。**句形として覚えておけば構わない。**

(例) 使ニ A フシテ B 一 実 は 「使」 は 返 読 文 字 。

(○) 漢文の基礎 の続き)

● 「返り点の付け方」の問題を**返読文字**の観点から解く。

【例題一】「惟意所欲適」の返り点の付け方と書き下し文の組み合わせとして最も適当なものを選び。

- ① 惟 意 所 二 欲 適 一 惟 だ 意 の 欲 し て 適 ぶ 所 に し て
- ② 惟 意 所 欲 適 一 惟 だ 意 ふ 所 に 適 は ん と 欲 し て
- ③ 惟 意 所 欲 適 一 惟 だ 欲 す る 所 を 意 ひ 適 きて
- ④ 惟 意 所 欲 適 一 惟 だ 意 の 適 か ん と 欲 す る 所 に し て
- ⑤ 惟 意 所 二 欲 適 一 惟 だ 欲 し て 適 く 所 を 意 ひ て

(2021 共通テスト第一日程)

「返り点の付け方(と書き下し文)」の問題は、**漢文の構造や返読文字等に従った返り点かどうか**で選択肢を絞る(絞れないときもある)そして、**残った選択肢をそれぞれ書き下しに即して約してみ**て正解を決める。

【例題一答】「所」「欲」が返読文字という観点から、④が正解ではないかと目算がつく。

なお、返読文字であっても、読みが違えば返読文字にならないものもあるので注意。

(例) 若(如) 「ごとし」と読むときは返読文字だが、「もシ」と仮定形で扱う時は返読文字ではない。

(○) 疑問形・反語形・詠嘆形 の続き

多くの疑問詞は、疑問・反語形両用。だから文脈で疑問なのか反語なのかを考えるケースが出てくるのだ。

疑問・反語形両用の疑問詞の主なもの

- (1) 何 (奚・胡)
- a なんゾ (どうして) b いづクニカ (どこに)
- c なにヲカ (何を) d いづレノ (どの)
- e なんノくアリテカ (どんなくがあつて)
- (2) 安 (悪・焉・寧)
- a いづクンゾ (どうして) b いづクニカ (どこに)
- (3) 如何 (若何・奈何) ∴ 方法・手段を表す。
- いかん (セン) (どうしたらよいか)
- (4) 何如 (何若) ∴ 状態・程度を表す。
- いかん (どうであるか・どのようか)
- (5) 何為
- なんすレゾ (どうして)
- (6) 何以
- なにヲもつテ (カ) (どうして・どのようにして)
- (7) 孰
- a たれカ (だれが) (∥ 誰)
- b いづレカ (どちらが・どれが)
- (8) 幾何 ∴ 数量・程度を表す。
- いくばく (カ・ゾ) (どのくらい)
- ※ 文末の助字 (や・か)
- 乎・邪・耶・也・哉・与・夫・歟など

次の三つは、疑問の用法が (殆ど) ない反語形特有の形。

- ① 豈_ニ — _未 (乎・哉・邪) 豈に — _未 (や)
- ② 敢_{ヘテ} 不_ニ — _未 (乎) 敢へて — _未 ざらん (や)
- ③ 独_リ — _未 乎 (哉) 独り — _未 や
- ① 豈_ニ — _未 (乎・哉・邪) 豈に — _未 (や)
- ② 敢_{ヘテ} 不_ニ — _未 (乎) 敢へて — _未 ざらん (や)
- ③ 独_リ — _未 乎 (哉) 独り — _未 や
- 但し、「豈」は**たまたま**に詠嘆形でも用いられる (6項)。
- 「独」は限定形でも用いられる (12頁)。
- それぞれ、**文末の作り方が違ってくる**。

次は、**詠嘆形**。詠嘆形の代表は、次の形。

- 不_ニ 亦 (タ) — _未 乎 亦 (た) — _未 ずや
- それ以外に詠嘆形として用いる字に、「豈」「何」がある。
- 豈_ニ 不_ニ — _未 哉 豈に — _未 ずや

- ① 豈_ニ — _未 (乎・哉・邪) 豈に — _未 (や)
- ② 敢_{ヘテ} 不_ニ — _未 (乎) 敢へて — _未 ざらん (や)
- ③ 独_リ — _未 乎 (哉) 独り — _未 や
- 但し、「豈」は**たまたま**に詠嘆形でも用いられる (6項)。
- 「独」は限定形でも用いられる (12頁)。
- それぞれ、**文末の作り方が違ってくる**。
- 次は、**詠嘆形**。詠嘆形の代表は、次の形。
- 不_ニ 亦 (タ) — _未 乎 亦 (た) — _未 ずや
- それ以外に詠嘆形として用いる字に、「豈」「何」がある。
- 豈_ニ 不_ニ — _未 哉 豈に — _未 ずや
- ① 豈_ニ — _未 (乎・哉・邪) 豈に — _未 (や)
- ② 敢_{ヘテ} 不_ニ — _未 (乎) 敢へて — _未 ざらん (や)
- ③ 独_リ — _未 乎 (哉) 独り — _未 や
- ※ 「豈」は反語形として用いられる方が多い (右項)。
- ※ 「不」の代わりに「非」が入ることもある。

○疑問形・反語形・詠嘆形の続き

何^ソ——^体や

何ぞ——^体や

※「何」は疑問・反語として用いられる方が多い。疑問の時と詠嘆の時と同じ訓点になるので文脈判断が必要だが、詠嘆の場合は、「何」の下に強調を表す「其^レ」がつくことが多いのを知っておくと便利。

【例題二答】

- ① 何ぞ疾きや。(どうして速いのか。)
 - ② 何ぞ疾からんや。(どうして速いのか、いや、速くはない。)
 - ③ 何ぞ疾きや。(なんと速いことではないか。)
 - ④ 君はどうしてそのようであられるのか。(君何を以て能く爾^{しか}る。)
 - ⑤ b・e・g (未だ生を知らず、焉くんぞ死を知らん。
(まだ生について知らない、どうして死について知ろうか、いや知らない。))
 - ⑥ なんぢをいかんせん。(若を奈何せん。)
(お前をどうしようか、いや、どうしようもない。)
- ※「奈何」が目的語(ここでは「若」)を伴う場合、目的語を挟むのが普通。(※目的語↓3頁参照)
- ⑦ あにしんによくのまんや。(豈に真に能く飲まんや。)
 - ⑧ どうして本当に飲むことができようか、いや、できない。)

⑧

答

④

○再読文字

【例題三】各文は訓点のすべて、又は一部を省略している。

問題①〜⑦は、書き下し、口語訳せよ。

- ① 吾将焉帰。(埼玉大'18)
 - ② 齊雖^レ欲^レ攻^レ燕、未^レ能。(九大'96)
 - ③ 当^レ論^レ刑。(名大'05)
 - ④ 応笑惜花人。(阪大'04)
 - ⑤ 君酒太過、宜断之。(神戸大'02)
 - ⑥ 猶^レ保^ニ千歳之齡^一。(九大'04)
 - ⑦ 吾子盍^レ遂^レ之。(北大'04)
- 問題⑧⑨は、書き下しとして最も適当なものを選べ。
- ⑧ 大抵観^{ルニハ}書^ヲ、
(センター'91本試)
- 先須三熟読、使ニ其言皆若^レ出ニ於吾之口^一。
- ① まづまぎに熟読し、その言をして皆吾の口より出づるがごとからしむべし。
 - ② まづよろしく熟読し、その言の皆をして吾の口に出づるがごとからしむべし。
 - ③ まづすべからく熟読し、その言をして皆吾の口より出づるがごとからしむべし。
 - ④ まづまぎに熟読し、その言の皆をして吾の口に出づるがごとからしむべし。
 - ⑤ まづよろしく熟読し、その言をして皆吾の口より出づるがごとからしむべし。
 - ⑥ まづすべからく熟読し、その言の皆をして吾の口に出づるがごとからしむべし。

(○再読文字の続き)

⑨然則学レ杜 当ニ何如一而可。

(「杜」|| 杜甫のこと、センター'10本試)

- ① 然らば則ち杜を学ぶ者は何れのごときに当たればすなは而ち可ならんや
- ② 然らば則ち杜を学ぶ者は当に何如ぞ而ち可とせんや
- ③ 然らば則ち杜を学ぶ者は当に何れのごとくにすべくんば而ち可なり
- ④ 然らば則ち杜を学ぶ者は当に何如なるべくんば而ち可なるか
- ⑤ 然らば則ち杜を学ぶ者は何如に当たりて而ち可ならんか

【例題三答】 太字は、その再読文字について必要な知識。

① 吾將に焉いづくにか帰せんとす。

【訳】 私はどこに帰ろうとするのか。

「將」と同じ用法を持つ再読文字として「且」もある。ちなみに、(再読文字ではない) 別な用法として、「將」は「ひきキル」「もつテ(||以)」「はタ」、「且」は「かつ」「しばらく」とも読む。

② 斉(は) 燕を攻めんと欲すと雖(ど)も、未だ能はず。

【訳】 斉は燕を攻めようとするが、まだできない。

ついでに、返読文字の「欲」も確認しておこう。
欲ス 未 ト 二 一 (くしようとする) 雖 二 一 (ど) モ 未 ト (くだが)

③ 当に刑を論ずべし。
【訳】 当然刑を論じるべきだ。

④ 応に花を惜しむ人を笑ふべし。

【訳】 きつと花を惜しむ人を笑うだろう(はずだ)。

ちなみに、別な用法として、「こたフ」とも読む。

⑤ 君の酒 太はなだ過ぐ、宜しく之を断つべし。

君の酒はとても度が過ぎていて、これを断つのがよい。
ちなみに、別な用法として、「むべナリ」とも読む。

⑥ 猶ほ千歳の齢を保つがごとし。

【訳】 ちょうど(あたかも) 千年の寿命を保つようだ。

右の文の「保つ」に相当する部分に、用言ではなく名詞が来ることもある。その時は、「名詞+の+ごとし」となる。

「猶」と同じ使い方をする再読文字として「由」もある。
ちなみに、別な用法として、「猶」は抑揚形でも用いる。

⑦ 吾が子盍ぞ之を遂げざる。

【訳】 私の子供はどうしてこれを成し遂げないのか、

成し遂げるがよい。

「盍」が二字になって「何ソ 未 ト 一」の形で出てくることもある。

「盍」と同じ使い方をする再読文字として「蓋」もある。ちなみに、別な用法として、「蓋」は「けだシ」とも読む。

⑧ の答↓ ③ (正確な書き下し文は、「先づ須らく熟読し、其の言をして皆吾の口より出づるがごとからしむべし。」)

【訳】 まず十分に熟読し、その本の言葉が皆自分の口から出たように(感じられるまで)読み込む必要がある。

「須」の知識だけで、③か⑥の二つにまで絞れる。

⑨ の答↓ ④

「当」の知識で③か④、「何如」で疑問か反語だから④。

……再読文字は、ここに登場したものですべてである。

○使役形

【例題四】次の各問いに答えよ。

①王遂使左右捕虎。

(1) 訓点を施し、口語訳せよ。(2) 「使」と同じ用法を持つ字を、次の①～⑦のうちから三つ選べ。

- ① 令
- ② 雖
- ③ 被
- ④ 非
- ⑤ 遣
- ⑥ 猶
- ⑦ 教

②王令養之。(平仮名で書き下せ、現代仮名遣いで可) (九大'05)

③鼠至使余驚欲走。

(返り点と書き下しの組合わせて正しいものを一つ) (センター'04本試改題)

①鼠至下使ニ余驚ニ欲ト走。鼠余をして驚かしめ走げんと欲するに至る。

②鼠至レ使ニ余驚欲ト走。鼠余をして驚きて走げんと欲せしむるに至る。

③鼠至レ使ニ余驚ニ欲ト走。鼠余をして驚かしむるに至り走げんと欲す。

④鼠至下使ニ余驚ニ欲ト走。鼠余をして驚かしめ走げんと欲せしむるに至る。

⑤鼠至レ使ニ余驚欲ト走。鼠余をして驚かんと欲せしむるに至りて走ぐ。

④命百姓食糟糠。

(糟糠||粗末な食べ物、訓点を施し、口語訳せよ。)

【例題四答】

①は、使役形の最も典型的な形「S使ニA_{ラシテ}B_{ラシテ}」(訳)SがAにBさせる。)の文。

① (1) 王 _S 遂 _ニ 使 _ム 左 _{ラシテ} 右 _{ラシテ} 捕 _{ラヘ} 虎 _B 。	(訳) 王はとうとう側近に虎を捕まえさせた。
---	------------------------

(○使役形の続き)

【例題四答】の続き

① (2) 使役形で「しむ」と読める字は「使」「令」「遣」「教」の四つ。答は①⑤⑦。但し、「教」「遣」は、「Aに

教へてBしむ」(Aを遣はしてBしむ)と読むこともある。この時、使役の助動詞「しむ」はBの送り仮名として現れる。

②の答 おうこれをやしなわしむ。

使役形でSは省略されることが多い。また、Aも省略されることがある。②の文はAが省略された文。

③の答 ② 「S 使ニA_{ラシテ}B_{1用(テ)}B_{2未}」

他者にさせた内容を表すB(多くは動詞)が二つ以上ある場合、最後の動詞を除いては連用形で止め(或いは㊦+「て」)、最後の動詞を未然形にして「しむ」を付ける。

④の答 命_{ジテ} 百姓_ニ 食_ニ 糟糠_ヲ。

(訳) 人民に命令して粗末な食べ物を食べさせた。

「命」が使役を暗示する助字(「その字自体は「しむ」と読まないが、下の動詞の送り仮名に「しむ」をつけることが多い字のこと)。「命」の他に「説」「勸」「属」「詔」などが代表的。問題①で出てきた「教」「遣」も使役を暗示する助字になるわけだ。

(○) 否定形の続き)

④は、二つの否定語の間に**可能の字を挟む形**。

④の答 **不_レ可_ル 不_レ助_ニ 故_一 人_一。**

④ 昔なじみの友人を助けなければならぬ。

この形は、「不_レ可_ル 不_ニ——」の他に左の二つがある。

・不_レ得_レ不_ニ—— 不_レ能_レ不_ニ——

(二つとも④は「——せずにはいられない」)

⑤は、二つの否定語の間に**副詞を挟む「ずんばあらず」の形**。

⑤の答 **不_ニ敢_{ヘテ} 不_レ飲_マ。**

⑤ どうしても飲まないではいられない。

この形は、「不_ニ敢_{ヘテ} 不_ニ——」の他に左の二つがある。

未_ダ三_カ嘗_{ツテ} 不_ニ—— 未_レ④ これまでしなかったことはない。

不_ニ必_{ズシモ} 不_ニ—— 未_レ④ 必ずしもしなないと限らない。

③④⑤のどれでもないなら、**仮定形**を考えるとよい。(↓11頁)

⑥の答 **非_{ズンバ} 不_ニ読_ム 書_ニ不_レ能_ハ究_{ムル}道_ヲ。**

⑥ 読書でないならば、道を究めることができない。

上ページの補足。こんなものもある、ということ。次の例。
爾_{なんぢ} 不_レ憂_ヘ不_レ嘆_カ。 ④ お前は憂えないし、嘆かない。

否定語が二字含まれるが、③④⑤⑥のいずれでもない(単なる並列)。ただ、出題されるのは③④⑥が多いだろう(もつと言えば、⑤も二次でしかでないと思う)。以上が、**一文の中に否定語が二字含まれる文の見分け方**。

⑦⑧は、**部分否定と全部否定**。人にいくつかのことを質問されて、**部分的に答えなかったか、全部答えなかったか**の違いである。

⑦の答 **不_ニ尽_{クハ} 不_レ對_ヘ。** ④ 全部は答えなかった。

⑧の答 **尽_{クハ} 不_レ對_ヘ。** ④ 全部答えなかった。

部分否定は、「否定語+程度の副詞」、全部否定は、「程度の副詞+否定語」の語順。副詞は、常・俱・尽・皆・全・多・久・再などがある。ところで、部分否定の時の副詞の送り仮名が少し厄介。

部分否定の副詞の送り仮名 || 全部否定の副詞の送り仮名 + 「ハ」

(例) 常_ニ 不_レ笑_ハ。 ↓ 不_ニ常_ニ 笑_ハ。

但し、
・「復」↓**全**も**部**も「また」

例外が
・「必」↓**全** 「かならず」**部** 「かならずシモ」

三つ。
・「甚」↓**全** 「はなはダ」**部** 「はなはダシクハ」

また、部分否定の訳は、誰もが部分否定と取ってくれるものを心掛けよう。一度訳した後、自分で冷静に見返してみた方がよい。

○仮定形

【例題六】平易な現代語に訳せ。(東大'02)

梅^ハ以^テ曲^ヲ為^シ美^ト、直^{ナレバ} 則^チ無^シ姿^シ。

(句形)

(1) 順接仮定条件

如^シ(若) ^バもしくば (もしくならば)

苟^{クモ} ^バいやしくモくば (もしくならば)

今^バ ^バいまくば (今もしくならば)

使^ス ^バしめば (もしくさせたならば)

微^{カリセバ} ^バなかりせば (もしくがなかったならば)

(2) 逆説仮定条件

縱^ヒ(仮令) ^{トモ}たとヒくとも (たとえくとしても)

雖^モ ^{トモ}たとえくとも (たとえくとしても)

※「雖」は逆説確定条件で用いることもある。

(3) 否定の句法を並べる形

不^レ ^バA、不^レB ^未 (Aしなければ、Bしない。)

無^ク ^バA、不^レB ^未 (Aがなければ、Bしない。)

非^ズ ^バA、不^レB ^未 (Aでなければ、Bしない。)

※漢文では「已然形+ば」は万能で、仮定条件や、稀に逆接にも用いることがあるので、文脈判断が必要になる。

※右の※に関連するが、(3)は、「無^ク」「不^レ」「非^ズ」と「已然形+ば」で読んでもよい。

【例題六答】梅は曲がつているのを美しいと思うが、真つすぐなら見どころがない。「以^レA為^レB」|| AをBとみなす、思う)

○比況形

【例題七】傍線部の正しい読みを一つ選べ。(センター試行テスト)

若^シ如^レ此^ニ、但^ダ須^ル我^ニ去^ル一耳^ヲ。

① なんぢのごときは ② なんぢのごとくすれば

③ もしこれにしかば ④ もしかくのごとくんば

⑤ わかきことこれにしかば ⑥ わかきことかくのごときは

「若」「如」が比況形の時は次のようになる。



比況形で「**ゴトシ**」と読むときは**返読文字**。右の例題では、出題者は返り点を付けてくれているようだが、「若」にはないので、「若」は「**ゴトシ**」とは読めない。

「若(如)」共通の他の読みとしては、「**もシ**」(仮定形)

「**レク**」(訳及ぶ) (動詞、「不若」の形で比較形)がある。

「若」は二人称「**なんぢ**」としても用いる。なお、漢文では「わかシ」とは読めない。(「**少**」^{わかシ}を使う)

傍線部の残りの二字は、読みで大切な熟語で「**かくノ**

ゴトシ」である。③は「このようだ」なので意味的には比

況。「如^レ是」「若^レ此」「若^レ是」とも書く。

【例題七答】④

ちなみに、再読文字「猶」も、意味的には比況だよ。

○限定形と累加形

【例題十】傍線部と同じ意味・用法を持つ語はどれか。
 悪^ム我^ヲ者^ハ特^ズ爾^ニ。
 ①凡 ②夫 ③只 ④抑 ⑤蓋

(1) 限定の副詞 (詠) ただくだけだ

a 惟・唯・但・只・直・徒・特など (ただく (ノミ))
 b 独 (ひとりく (ノミ))
 c 僅 (わづかニく (ノミ))

※ aの「直」を「ただチニ」、「徒」を「いたづラニ」と読むこともある。(その時は限定の意味は持たない)
 ※ bは人間以外にも使う。意味はaと同じ。

(2) 限定の終尾詞 (詠) くだけだ (のみ)
 已・耳・而已・而已矣・爾

累加形は、基本的に限定形の上に否定詞が付いただけ。

【例題十答】 ③ (詠) 私を憎む人はただお前だけだ

不^レ二 惟^{ダニ} ノミナラ、 (亦) (タ) ……
 …… たダニノミナラズ、 (また) ……
 …… (詠) ただくだけではなく、 (また) ……
 …… ※否定詞には「非」「無」も使われる。

右の例文を累加形にすると、
 悪^ム我^ヲ者^ハ非^ズニ特^{ダニ}爾^ニ。ノミニ
 となる。

○比較形

【例題八】①は、同じ用法の「於」を含む文を一つ選べ。②は傍線部を分かりやすく口語訳。③はすべて平仮名で書き下せ。

① 速^ク亡^シ愈^ニ於^レ久^ク生^ニ。
 (センター'96本試、'91本試改題)

① 青出^ニ於^レ藍^ニ。
 ② 良薬苦^ニ於^レ口^ニ。
 ③ 苛政猛^ニ於^レ虎^ニ。
 ④ 君子博^ク学^ニ於^レ文^ニ。
 ⑤ 先^ニ則^レ制^レ人、後^ニ則^レ制^ニ於^レ人^ニ。

② 予^{われハ}賢^ハ子^也。不^レ如^レ汝^也。
 ③ 莫^ク如^ク有所^レ愛^ス。

①は、置き字「於」を用いた比較形である。

A^ハ 於^ニ (于・乎) B^{ヨリモ} C^ダ。
 (詠) AはBよりもCだ。

「於(于・乎)」には色々な用法がある。例題の選択肢を用いて説明すると、①が**起点**、②が**場所**、③が**比較**、④が**対象**、⑤が**受身**である。比較の時は、Cに形容詞か形容動詞がくることが多い。

①の答 ③ (速やかに亡ぶるは久しく生くるよりも愈る)
 《ちよつとひとこと!!》①の文がセンターに出た時の正解は、「速やかに亡ぶるは久しく生くるに愈る」だった。比較なのになぜ?と思うかもしれないが、訓点は日本人が漢文を理解するために後から作ったものなので、若干の差異が生じる場合もあるのだ。勿論私達としては、比較だと思つたら「よりも」と送り仮名を付ければそれでいいのだ。

○比較形 の続き

②は比較級。

・「不如(不若)」で比較を表す形

AはBに及ばない。

③ AはBに及ばない。

この句形の場合、例文②の傍線部のように、Aが省略される
ことがある。今、設問の要求が「分かりやすく」だから、A
を補って訳す必要がある。

②の答 (私は青二才だ。) 私はあなたに及ばない。
(予は豎子なり。汝に如かず。)

③は最上級。あえて白文で出した。「有」「所」は返読文字だ
と知ってたらできるかな、と思ったので。

・「莫如(莫若・無如・無若)」で最上級を表す形

莫如 Aに及ぶものはない。

(Aが一番だ)

③の答 あいするところあるにしくはなし。

(③愛する人がいるのに及ぶことはない。)

比較形のお隣さんに「選択形」という句形があるが、入試で
の登場回数が少ないので今回はカットした。ただし、選択形
で登場する「寧」「与」「孰」と「孰」との読みぐらひは知っておい
て下さい。

○受身形

【例題九】傍線部を訳せ。(センター17追試改題)

君 為 人 所 給 矣。

受身形は、次の3パターン。

① 見^{る(ら)ル}ニ^未。 ② 見^{る(ら)ル}ニ^未。 ③ 見^{る(ら)ル}ニ^未。

「見」の代わりに「被」「所」「為」も用いる。「る」「らる」
の使い分けは古文と同じで、——部の動詞の最後を伸ばして
「ア」となったら『る』、そうでなきゃ『らる』。例えば、「見
レ召」なら、「召さア」だから「る」が正しい。
※なお、「見」は「見^{ミル}」(見る、会う)、「見^{ミユル}」(お目にかか
る)、「見^{ミラレ}」(現れる)、「見^{ミラス}」(現す)とも読む。

② 為^ルニ^ト A 所^ト B 体。 (為^レ A 所^レ B 未)

③ AにBされる。★但し、「A」「所」はたまに省略される。
→この形には「る」「らる」という読みが入らない(から難しい)。

九大では04年に、「為^レ所^レ窃^{ヌスム}」という句を書き下す
問題が出た。(つまり、Aが省略されているものが出た)

③ A^{未(ラル)} 於(于・乎) B^ニ。 ④ BにAされる。

比較形(PL)で登場した「於(于・乎)」を用いるもの。
ただし、「於」があつたら絶対受身か、という訳ではない。
例えば、「制^ニ於^人」は「人に制せらる」だけでなく
「人を制す」となることもあるのだ。文脈で判断。

【例題九答】(君は)人にだまされたのだ。(君人の給く所と為る。)

○抑揚形

【例題十一】書き下し、口語訳せよ。
為^{タル}ニ英雄^ニ者^ニ猶^レ若^レ是、況^ニ常人^ニ乎。

(千葉大'05)

抑揚形は、後文を強調する(＝揚)用法である。

① A ^{スラ} 且^ツ 尚^ホ 猶^ホ B。(而^{ルラ}) 況^{ンヤ} C 乎。

訳 AでさえBだ。ましてCはなおさら**B**だ。

※忘れずに→

なお、抑揚形を訳ではなく「どういうことか」と聞いて、B等を補わせる形の出題もある(結果、訳に近い解答になる)。

② A ^ハ B。(而^{ルラ}) 況^{ンヤ} C 乎。

訳 AはBだ。ましてCは**なおさらB**だ。

③ A ^{スラ} 且^ツ 尚^ホ 猶^ホ B。安^{クンツ} C ^{モン} 乎。

訳 AでさえBだ。どうしてCしようか、いや、Cしない。

【例題十一答】

英雄たる者すら猶ほ是くのごとし、況んや常人をや。

① 英雄である人でさえこのようだ。まして凡人はなおさらこのようだ。

○「熟語問題」

例の、あれ。実は、'02以前と'03以降で設問が変わっている。

'02以前：「同じ意味で用いられている語」を一つ選べ。

'03以降：「同じ意味を含む熟語」を一つ選べ。

'02以前の聞き方なら、正解の熟語をそのまま傍線部に入れても文意が通っていた。しかし例えば'03の場合、正解の「出藍」「余熱」は、熟語としては傍線部に入れることが出来ないように変わっていた。

さらに困ったことが起こった。'07本試では、「同じ意味で」に戻ったのだが、今度は傍線部(線が引いてあったのは「善」の漢字を含まない二次熟語(正解は「特技」)を選ばせる、という新傾向が登場したのだ。そしてさらに、'09追試では、'02以前のパターンに戻った。その後も聞き方が行ったり来たりしているのだが、ただ、君たちにできるのは、次のこと。

① 熟語問題に限ったことではないが、**設問をよく読んで、設問に沿った形で考えていく**、という鉄則を守る。

② 意味が分からない漢字に出くわした場合に、熟語を作るとうまく理解できることがあるので、それは設問以外の箇所でも使つてよい技。

(例 「報」↓「報復」「報恩」とか)

熟語問題は過去19回出題されているが、2回出たのは「易」のみであとは1回ずつ。という訳で、未出の、複数の意味を持つ漢字を次ページに少しだけ並べておく。当たったらおなぐさみ。

案

①考える「思案」②計画「議案」③公文書「答案」

白

①明らか「明白」②清い「潔白」③明るい「白日」④告げる「告白」

故

①昔の「故事」②以前の「故郷」③死ぬ「物故」④災い「事故」

⑤わざと「故意」⑥理由⑦だから

罪

①過ち「罪状」②刑罰（を加えること）「断罪」

①なくす「遺失」②誤る「失政」

処

①居る「処世」②仕官せず家にいる「出処」③捌く「処理」④場所

①親、身寄り「親類」②親しい「親善」③自分で「親書」

①つくる「造作」②到達する「造詣」

卒

①雑兵「兵卒」②終わる「卒業」③死ぬ「卒去」④にわかに「卒然」

遊

①あちこちを回る「遊覧」②楽しむ「交遊」③泳ぐ「遊泳」

○漢詩の知識

〔漢詩〕センター試験になってから十一度出題。

①詩の形式

詩体		詩の形式				一句の 字数	句数
古体詩 (六朝以前)	古詩	四言古詩	五言古詩	七言古詩	不定	四字	自由
		五言絶句	七言絶句	五言律詩	七言律詩	五字	
	樂府 (がふ)	五言絶句	七言絶句	五言律詩	七言律詩	五字	四句
		五言律詩	七言律詩	五言排律	七言排律	五字	
近体詩 (六朝末以後)	律詩	五言律詩	七言律詩	五言排律	七言排律	五字	八句
		七言律詩	五言排律	七言排律	五言絶句	七言絶句	
排律	五言排律	七言排律	五言排律	七言排律	七言排律	七字	十二句 以上
	七言排律	五言排律	七言排律	五言排律	七言排律	七字	

②押韻

偶数句末（但し、七言の時は、第一句末も押韻することが多い）の字を発音して、最初の子音をのぞいた部分（例 歡kanの押韻は「an」）

但し、完璧に押韻が合致している選択肢がない問題もある。その時は、一番似ている選択肢を選べばよい（平成11年追試がそうだった）。押韻しているのはあくまで古代中国語においてであり、私たちは私たちの言語を用いて押韻を推測するしかないから、こんなことも生じるのだ。また、平成26年追試では、押韻が変化していく詩が出題された。

③対句

対句とは、対の句の同じ位置にある語の文法上の働き（名詞、動詞、形容詞か形容動詞、その他）が同じであり、また、意味の上でも何らかの対応関係があるものを言う。

〔例〕

涙目 描将 易
愁腸 写出 難
（平成十二年追試）

※律詩の場合、頷聯（第三句と第四句）、頸聯（第五句と第六句）は必ず対句になっている。

過去の出題では、押韻と対句の知識を併せて問う問題も出題されているので確認しておくこと。（右に挙げた平成12年追試がそうである）

○語彙

【和漢異義語】

一人（いちにん）
 遠慮
 稽古
 傾国
 故人
 左右
 小人（しょうじん）
 城
 人間（じんかん）
 絶句
 大丈夫（だいじょうふ）
 大人（たいじん）
 馳走
 長者
 百姓（ひやくせい）
 迷惑

天子
 将来を見通した深い考え
 昔の事柄を考え調べること
 絶世の美人
 昔なじみ・旧友
 側近
 徳のない人・私（謙譲の自称）
 城壁をめぐらせた街
 人の世・俗世間
 四句から成る漢詩のこと
 意志の強い立派な男
 徳のある人
 馬を走らせる
 年長者・目上の人
 人民
 道に迷う・心が迷う

【複合語】

所謂（いはゆる）
 今者（いま）
 以為（おもへらく）
 若レ是（如レ此）（かクノゴトシ）
 寡人（くわじん）
 於レ是（ここニオイテ）
 是以（ここヲもつテ）
 以レ是（これヲもつテ）
 不レ然（しかラズンバ）（不者）
 已而（すでニシテ）
 就中（なかんづく）
 何則（なんトナレバすなはチ）
 何為者（なんスルものゾ）
 何也（なんゾヤ）
 何謂也（なんノイヒゾヤ）
 為レ人（ひとトナリ）
 昔者（むかし）
 宜乎（むべナルカナ）
 不レ得レ已（やムヲえず）
 已乎・已矣（やんヌルカナ）
 所以——（ゆゑん）

世にいう
 今
 思うことには
 このようだ
 私（諸侯の一人称）
 そこで
 こういうわけで
 このことによつて
 そうでなければ
 やがて
 とりわけ
 なぜかという
 何者か
 どうしてか
 どういう意味か
 人柄・性質
 昔
 もっともだなあ
 仕方がなく
 これまでだなあ
 ①——する理由
 ②——するもの・こと

(○語彙の続き)

【副詞】

- 肯 (あへて)
- 徒 (いたづらニ)
- 蓋 (けだし)
- 悉 (ことごとク)
- 乃 (すなはチ)
- 即 (すなはチ)
- 便 (すなはチ)
- 輒 (すなはチ)
- 則 (すなはチ)
- 抑 (そもそモ)
- 忽 (たちまち)
- 竟・遂・終・卒 (つひニ)
- 窃 (ひそカニ)
- 能 (よく)
- 尤 (もつとモ)
- 固 (もとヨリ)

進んでゝする
 ※「不レ肯」は「がへんぜず」と読む。
 無駄に ※「たダ」とも読む。
 思うに
 皆
 そこで・そして
 すぐに
 すぐに
 そのたびごとに・すぐに
 ならば (↓p20) ・ゝすると
 一体・さて
 突然
 結局
 ・「遂」は「そのまま」の意もある。
 ・「不レ能」は「あたはず」と読む。
 ・「能」は「ながら(謙遜の語)と読む」
 ・「まことニ」「かたシ」とも読む。

(○語彙の続き)

【動詞】

- 对 (こたフ)
- 事 (つかフ)
- 悪 (にくム)
- 已 (やム)
- 之 (ゆク)
- 為 (をさム)

目上の人に答える
 仕える
 憎む ※「あく」「いづくンゾ」
 「いづくニ(カ)」とも読む。
 やめる・終わる
 ※「すでニ」「すでニシテ」
 「のみ」とも読む。
 行く
 ※「これ(コレ)」「の」とも読む。
 治める
 ※「つくル」「なス」「ナル」「たり」
 「る・らル」「ためニ」とも読む。

○コラム

「複数テキスト」
 「大学入学共通テスト」では、各大問で、本テキストとは別のテキストが設定されることがある。両テキストの共通点や相違点について問うたり、一方のテキスト内容を活かしてもう一方のテキストをより深く理解するといった問いが出題されている。今後増える出題形式なので、慣れておくことが必要だ。

○漢文の文学史

漢文の文学史を入試で問う大学は限られています。但し、近年のセンター試験では、基礎的な文学史は学習しているという前提のもとに出題している問題が見受けられます。

【諸子百家】

諸子	思想など	人物	書名	その他
儒家	仁・徳治主義	孔子	『論語』	字は仲尼 <small>ちゆうに</small>
		孟子	『孟子』	
道家	無為自然	老子	『老子』	
		莊子	『莊子』	
法家	法治主義 信賞必罰	韓非 <small>りじ</small>	『韓非子』	韓非子は荀子の影響を受けた
		李斯		
墨家	兼愛・非攻	墨子	『墨子』	
		孫子	『孫子』	
兵家	兵法を説いた	蘇秦		合従策
		張儀		
縦横家	外交策を説いた			連衡策

☆四書…儒教の必読書。『大学』『中庸』『論語』『孟子』
五經…儒教の「四書」に次ぐ必読書。

『書経』『易経』『詩経』『春秋』『礼記』

【詩人・文章家】

春秋	『詩経』(最古の詩集・孔子編纂か?)
戦国	屈原『楚辞』
漢	(楽府(≡民謡)) 曹植(魏・曹操の子) 陶潜(陶淵明)『帰去来辞』『桃花源記』
南北朝	東晋 陳子昂
唐	初唐 李白・杜甫・王維・孟浩然
	盛唐 白居易(白楽天)『長恨歌』『白氏文集』 韓愈・柳宗元
北宋	蘇軾(蘇東坡)・王安石
南宋	陸游

☆李白…『詩仙』と称された
杜甫…『詩聖』と称された
王維…『詩仏』と称された

(唐)韓愈・柳宗元
唐宋八大家(文章家)
(宋)歐陽脩・蘇洵
蘇軾・蘇轍
王安石・曾鞏

(○漢文の文学史の続き)

【その他】

● 儒教

朱熹 (朱子) …… 宋の人。儒教の新たな体系化 (≡ **朱子学**) を行った。

王陽明 (王守仁) …… 明の人。朱熹を観念的だと批判し、**陽明学**を興した。

以後朱子学・陽明学は儒教の二大学派として発展。

● 史書

前漢 …… 『史記』(司馬遷)

魏晋南北朝 …… 『三国志』(陳寿)

宋 …… 『資治通鑑』(司馬光)

元 …… 『十八史略』(曾先之)

● 小説

明 …… 『**三国志演義**』(羅貫中?)

『**水滸伝**』(施耐庵?)

『**西遊記**』(呉承恩?)

『**金瓶梅**』(笑笑生?)

} 四大奇書と
呼ばれる

清 …… 『聊齋志異』(蒲松齡)

『紅樓夢』(曹雪芹)

『儒林外史』(呉敬梓)

● その他

魏晋南北朝 …… 『**文選**』(蕭統) ≡ 文章・詩賦を集めた

明 …… 『唐詩選』(李攀竜) ≡ 唐詩の再評価

○ (次頁以降の) 卷末例文集について

最新の入試問題から、実力養成に最適と思われる例文を抽出してみました。敢えて白文(または、それに近い形)で並べておきますので、各例文について

・ 訓点を付ける・書き下す・現代語訳をする
という作業を、**何度も何度も**やってみてください。

○ コラム

「豈」のご乱心

反語形として頻出する「豈」。ところが、H26本試(平均点が100点を割ったあの年)では推量・疑問の「豈」が出題され、受験生を混乱に陥れた。さらにH27追試には選択形で、H29本試には詠嘆形で「豈」が登場、共通テスト(第二日程)では反語の「豈」も疑問の「豈」も登場…。ちよつと勘弁してほしい、というのが本音だが、それでも最新の入試動向を注視しておくことは必要だろう。

○ あとがき

初版から十九年、今回は、共通テストの動向まで加筆して「第八版」を上梓するに至りました。都度、改良を重ねてきたので、皆様の役に立つものと自負しています。**【例題】**や**【卷末例文集】**に繰り返し当たり、必要事項を覚えてください。そして、共テやセンター試験、各大学の過去問に当たってみてください。必ずや高得点が取れるはず。精進が実ることを祈っています。

【卷末例文集】

① 予与汝偕死。

(千葉大)

⑧ 聖賢ヨリ觀レバ之ヲ、何其浅乎。

(名大)

② (立派な者が国を治めていれば)

安有取人之駒者乎。(名古屋市立大)

⑨ 古人云、死生亦大矣。豈不痛哉。

(南山大)

③ 烏得不貧。

(東北大)

⑩ 将問礼於老子。

(県立広島大)

④ 何故不受。

(但し、疑問文として。信州大)

⑪ 蝉将去而未飛。

(法政大)

⑤ 如吾民何。

(但し、反語文として。宮城教育大)

⑫ 会かならず須殺此田舎翁。

(東大)

⑥ 我子豈得与先帝子比。

(東大)

⑬ 汝宜速出。若不時出、当断汝命。

(早稲田大)

⑦ 不亦悖乎。

(悖||もとル、熊大)

⑭ 仁之勝不仁也、猶水勝火。(熊大)

⑮桓侯使人問其故。

(桓公：人名、九大)

⑳寧為此而勿為彼也。(為：なす、北大)

⑯使人取虫置酒中。

(信州大)

㉑不如其処小国。

(『戦国策』)

⑰但教子孫怠惰耳。

(佐大)

㉒季子富於周公。

(季子・周公：人名、論語)

⑱無不變色離席。

(神大)

㉓莫若身無痛而心無憂。

(北大)

⑲不復与爾。

(神大)

㉔今而見扱。敢不請罪。

(阪大)

⑳先生復独不拜。

(小樽商科)

㉕為鼠所齧。

(センター)

㉑父兄不可常依、郷国不可常保。

(岩手大)

㉒不惟無罪、乃有賞。

(『蘇軾文集』)